

第1部 「非戦を選ぶ演劇人の会」有志による

ピースリーディング（1時間30分）

「それゆけ安全マン!? “レントゲン・チェルノブイリ・フクシマ” ~2011.12.7沼津」

今年8月27日・28日に、東京で、非戦を選ぶ演劇人の会が、朗読劇『核・ヒバク・人間』（ピースリーディング vol.14）を上演しました。

その台本のもとになった『それゆけ安全マン!? “レントゲン・チェルノブイリ・フクシマ”』を、若き劇作家・相馬杜宇・清水弥生両氏が、最新情報を加えて沼津ピースリーディング用に書き直してくれました。

「対話によって成立する演劇は、武力攻撃による外交手段に反対します。人間を中心に据えた演劇は、人権を軽視する法案に反対します。演劇は戦争に反対します。」（「非戦を選ぶ演劇人の会」呼びかけ文より） 平和を愛する演劇人の心意気をご堪能ください。



作：相馬杜宇・清水弥生

出演者（50音順）：

猪熊恒和・占部房子・円城寺あや

大沢健・小山貴司・金井良信・坂手洋二

田根楽子・土屋良太・西山水木・松村武

みやなおこ



東京公演(全労済ホール)

第2部 演劇・平和・原発 … ユーモラスに熱く真摯に語ります！

作者・役者によるトーク・トーク



「それゆけ安全マン in 沼津ができるまで」 (40分)

とき	12月7日(水) 夜6:00開場 6:30開会~9:00閉会
ところ	沼津市民文化センター・小ホール
当日券	大人 1,500円 (前売券 1,200円)
	高校生 800円 (中学生以下無料)

主催／オリーブ・ジャム

共催／沼津母親連絡会

問合せ／みどり合同法律事務所 TEL(931)4471 チケット取扱／沼津市民文化センター など

『原発の過去・今・未来を見つめて～朗読劇にかける思い～』

非戦を選ぶ演劇人の会・清水弥生（劇作家）

来たる十二月七日、沼津にて、私たち「非戦を選ぶ演劇人の会」有志による朗読劇を上演する機会を頂いた。タイトルは『それゆけ安全マン！？～レントゲン・チェルノブイリ・フクシマ～』。アンパンマンなら知っているけど、「安全マン」って？と思ったあなた。実はよく知っているはず。三月十一日の原発事故が起きてから、どれほどの「安全マン」が日本中を駆け巡っただろうか。アンパンマンはいざというとき自分の顔を差し出してくれるが、「安全マン」は安全をくれるわけではないらしい。中身がアンコではないのでしかたがないのだが、「安全マン」は全然食えないのである。この朗読劇では、原発をテーマにしたお芝居を創ろうと決意した高校生演劇部員たちが、実在の人々の証言に触れ、原発を支える差別構造、はらんでいく矛盾を知っていくなかで、脱原発の可能性を模索していく体に仕立てられている。六月にチャリティーイベントのため企画し、東京で上演した。幸い、「ユーモアもあって分かりやすい」と好評をいただき、すでに各地の団体にこの戯曲の上演を企画していただいている。

「非戦を選ぶ演劇人の会」は、二〇〇三年、アメリカによるイラク攻撃と日本のイラク派兵に反対するために永井愛、坂手洋二ら演劇人同士がよびかけあい、発足した会である。その後も平和への願いを表現していく活動を継続し、ゆるやかにつながりあい、広がっている。恒例になりつつある年一回の朗読劇では、紛争や迫害によって困難に陥っている人々を支援するために現地で働く団体等へ、収益金を寄付している。東日本大震災以降、メンバーで話し合い、一致したひとつの思いがあった。核エネルギーは核兵器と切り離すことのできないもので、原発を肯定することは、戦争に「加担」することにつながっている。脱原発を目指していくことは「非戦」への一歩なのだ。

原案・執筆を担当した相馬は台本に込めた思いをこう語っている。

「三年前に取材で浜岡原発に行った時の体験について作品の中で触れています。ドラマかと思うような衝撃的な事実の連続でした。『このまま原発に頼っていたら、いつか大変なことが起きる』と強く実感したのを覚えています。そして三月十一日です。明らかに遅い決心でしたが、劇作家としてこの問題を取り上げなければと筆を執りました」

沼津での上演にあたって、私たちは再度戯曲を見直し、現状に即したものに書き換えている。この劇をホットなうちに多くの方へ届けたい、そして無事に終えたらホッとした気持ちで沼津名物アジの干物を心ゆくまでかみしめたいと願っている。

* * * * *



《出演者》 (50音順)

☆猪熊恒和

「1984年より燐光群に参加。同年『オルレアンのうわさ』以降、『天皇と接吻』『だるまさんがころんだ』『翅裏』（作・演出＝坂手洋二）等、燐光群のほぼ全作品に出演。他、関西テレビ／アトリエ・ダンカン『青空のある限り』、新宿梁山泊『東京アパッチ族』、新国立劇場『マッチ売りの少女』東京、国際芸術祭『浮力』等。映画『写楽』（篠田正浩監督）。」（『たった一人の戦争』作・演出＝坂手洋二、パンフレットより）

☆占部房子



日本の女性俳優。小野事務所所属。千葉県出身。小学生のときに子役として舞台デビュー。2005年の主演映画『バッシング』で注目を集める。現在は脇役としての活動が主体だが、2007年に相次いで出演したドラマとCMで知名度を上げつつある。ボーイッシュで、短髪（テレビCMのときの姿がそれ）。（出典：ウィキペディア）

☆円城寺あや



日本の女優。東京都出身。身長160cm、血液型はO型。浅井企画所属。特技は水泳、ウクレレ。趣味はお城巡り。かつては「夢の遊眠社」に野田秀樹や段田安則、羽場裕一、田山涼成、佐戸井けん太らと所属していた。その後は活躍の幅を広げて舞台のみならず幅広く活躍している。大島蓉子と並ぶ昼ドラの常連女優でもある。またおもに小姑役や気位の高い女性役を得意とする。（出典：ウィキペディア）

☆大沢健



日本の俳優。東京都出身。身長178cm、体重65kg。特技は、日本舞踊（花柳流）。主な出演作 映画 タンポポ（1985年、東宝） - いじめっ子 役 ぼくらの七日間戦争（1988年、東宝） - 中尾和人 役 ファンシイダンス（1989...（出典：NewsWatch）

☆小山貴司



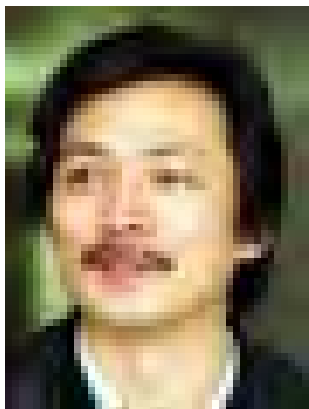
出身地：静岡県 * 生年月日：1987年11月2日 * プロジェクトM入団年：2009年 主な出演作 【プロジェクトM】 * 2009「離宮のタルト」(相鉄本多劇場/サンモールスタジオ/ピカデリーホール/ネオンホール/神崎ふれあいプラザ) * 2009「飯縄おろし」(タイニイアリス) *

☆金井良信



1963年2月11日生。
デビューのきっかけー1992～1999年劇団唐組に所属
ジャンル別作品ーテレビ 科捜研の女・刑事殺し・火災調査官
・紅蓮次郎・はぐれ刑事純情派・いじわるばあさん・妻殺し
映画ーTHE CODE/DOLLS 舞台ー虹屋敷・ヤジルシ～誘われて ラジオFMー青春アドベンチャー・ジャガーになった男ーアテレコ・アニメ 北斗の拳ラオウ外伝天の霸王
WEBシネマー探偵事務所5 (ヤフー人物名鑑)

☆坂手洋二



1962年生。日本の劇作家。劇団「燐光群」主宰。日本劇作家協会会長。岸田国土戯曲賞選考委員。

岡山県生れ。岡山県立岡山芳泉高等学校、慶應義塾大学文学部国文学科卒。山崎哲の「転位・21」に参加の後、1983年、劇団燐光群を旗揚げ、『黄色犬』でデビュー。左翼的色彩の強い前衛劇を作・演出してきたが、1987年の『カムアウト』で注目され、1991年、『ブレスレス』で岸田国土戯曲賞受賞。1999年、平野共余子の、GHQによる検閲についてのノンフィクションから題名を借りた『天皇と接吻』で読売演劇大賞、2003年、『屋根裏』で読売文学賞、2005年、『だるまさんがころんだ』で鶴屋南北戯曲賞、朝日舞台芸術賞受賞。

坂手の作品は「社会派」と呼ばれる。社会問題のほか、ラフカディオ・ハーンをモチーフにしたもの（『神々の国の首都』など）もある。『光文 63年の表具師幸吉』『トーキョー裁判』『天皇と接吻』などでは昭和天皇の戦争責任を問題にした。（ウィキペディア）

☆田根楽子



1946年。石川県出身の女優。身長157cm、体重42kg。主な出演作 テレビドラマ NHK連続テレビ小説 君の名は（1991年） コラ!なんぼしょっと2（1992年） 土曜ドラマ 否認（1994年） ドラマ10 ラストマネー -愛の値段-（2011...（出典：NewsWatch）

☆土屋良太



1967年生。
デビューのきっかけー1993年劇団300養成科夢人塾1期生
ジャンル別作品ーテレビ わたしが子どもだったころ・おひとりさま・トップセールス・トリハダ2・セクシーボイスアンドロボ
映画 かずら・花になる・トキワ荘の青春・卓球温泉
舞台 木の皿・山の声・シャンハイムーン・トーキング・「トゥ・テロリスト」・シンベリン **CM** 協和発酵（ヤフー人物名鑑）

☆西山水木



1957年11月1日生。佐賀県出身の女優、演出家。桐朋学園芸術短期大学卒業。ラ・カンパニー・アン主宰、エージェントは演劇制作株式会社プリエール。特技は九州方言、ダンス。

初日通信大賞 助演女優賞（1988/89年）
読売演劇大賞 優秀女優賞（1997年）

（出典：ウィキペディア）

☆松村武



1970年10月24日生。日本の演出家、劇作家、俳優、声優。奈良県出身。血液型O型。尾木プロ THE NEXT 所属。
奈良女子大学附属中等教育学校、早稲田大学卒業。大学の演劇倶楽部を母体に、高校の同級生だった八嶋智人らとともに劇団カムカムミニキーナを立ち上げ、主宰として作・演出を手掛ける。（出典：ウィキペディア）

☆みやなおこ



1962年2月26日生。日本の俳優。所属事務所はキューブ（リコモーション東京）。血液型B型。大阪府立住吉高等学校、同志社大学経済学部卒業。劇団そとばこまち出身。生瀬勝久、山西惇、と共に、劇団の看板女優として「冬の絵空」「おまえを殺しちゃうかもしれない」など、2001年退団までに、50本以上のほとんどの舞台に出演。外部プロデュース公演にも数多く出演。

2002年2月に、演劇企画ユニットDONNA・DONNAを旗揚げ。プロデューサー兼女優として活動。代表作は、谷口秀一作・演出の二人芝居、「なんぼのもんじゃい」。1987年の初演より2004年再演まで何度も再演を重ねる。アロマセラピーインストラクター、メディカルハーブコーディネーター、バッチフラワーなどの免許を持ち、現在ホメオパスを目指して、ホメオパシー医学を勉強中。（出典：ウィキペディア）

《作家》

☆相馬杜宇(あいばもりたか)

1985年生まれ、岩手県出身。劇作家だけの劇団、劇団劇作家所属。非戦を選ぶ演劇人の会実行委員。2009年度からは杉並区立富士見丘小学校の演劇授業、2010年度からはその他の小中高校の演劇ワークショップにも携わっている。

戯曲『在り処』で、2005年度岩手県久慈市市民文芸賞奨励賞、2007年劇団劇作家公演「劇読み！ vol.1」にてミラクル賞受賞。他の主な作品に『茶飲み兄弟』、『痩せてたまるか！』などがある。

☆清水弥生

燐光群に所属する劇作家。